

森づくり最前線

利根沼田森林管理署 沼田森林事務所 森林官 田畑 真澄



玉原高原のブナ林

私の勤務する沼田森林事務所は群馬県北部の沼田市にあり、日本百名山の赤城山や武尊山、ぐんま百名山の鹿俣山や子持山などの山々に囲まれています。また、市域を南北に貫流する利根川と支流片品川においては、日本一美しいと評される高低差70mの河岸段丘も見られ、自然に囲まれた緑豊かな場所です。

当事務所は沼田市と昭和村にある約6,000haの国有林を管理しており、登山者も多く訪れます。市北部には標高1,150mから1,600mの位置に玉原高原が広がり、ブナの天然林や高層湿原、スキー場などがあることから観光客も多く訪れます。また、



伐採後の検査の様子（適正に伐採された区域の周囲の木に印をつけます）

また、現場ではクマやニホンジカ等の獣による樹木の樹皮を剥いだり植物の葉を食べたりするなどの被害が深刻です。非常勤職員と樹木ヘテーパー（生分解性）を巻き、獣害対策を実施してきていますが被害は後を絶ちません。観光地となっている玉原湿原にお

真田氏が城主として有名な沼田城跡地もあります。昭和村は村の面積の40%が畑で農業が盛んです。こんにゃく芋は全国で一位の生産量です。この自然豊かな2市村の国有林内で、森林調査や境界確認などの各種調査や管理業務を行っています。

春のミズバショウから始まり、コバイケイソウやタムラソウなど季節によりさまざまに植生を観察することが出来ます。これらの希少な植物の被害が深刻であったことから平成30年度より沼田市や地元自然保護団体の方々と協力しニホンジカの食害を防ぐため、湿原へネットを張り侵入対策を実施しました。対策により

いても、ミズバショウ等の植物がニホンジカの食害により減少の脅威となっていました。玉原湿原は、国有林内に位置しブナ林に囲まれた4.3haの湿原で、尾瀬にたとえられ「小尾瀬」とも呼ばれています。



シカ防除ネットの設置

ミズバショウ群落等の回復が見られたことから、今年度も継続して対策を実施していきます。また、獣害対策の一つとして昭和村の国有林内では、6月と10月の年2回、職員実行で有害鳥獣捕獲（くくり罠）も実施しています。

森林の育成だけでなく獣害の対応など、どのような森づくりをしていくのか森林官として悩む毎日ではありますが、関係機関や地元団体等と連携を密にしながらよりよい森づくりを行っていきたくと考えています。



カケス（懸巢）
約33cm. 他鳥の鳴き声が上り賢い鳥。
たまにチェンソーなどの機械音も怖く、